事例No.	2554
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	多文化まちづくり工房

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・人材確保・育成

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

多文化まちづくり工房

出典

平成26年度ふるさとづくり大賞事例集

荒川区伝統工芸技術保存会　東京都荒川区

概　　要

昭和５２年度に「第１回あらかわの伝統技術展」が始まり、同５７年の荒川区文化財保護条例施行の際に、業種を超えた伝統工芸技術の保持者による文化財保護団体として発足した。江戸以来の伝統工芸技術の保存、次世代への技術の伝承・育成を目的に、３２年にわたり「あらかわの伝統技術展」「あらかわ職人教室」「あらかわ職人道場」などの普及事業を実施している。



評価された点

・荒川区の伝統工芸を、小学校へ講師を派遣するなどにより、技術の伝承と後継者の育成を一体として取り組んでおり、地域ぐるみの文化継承のあり方およびその成功事例として評価が高い。
・当該地域のもつ伝統工芸の技術を伝承していくと同時にその保存を目的とした他に類をみない活動である。
・観光資源の少ない大都市中心部で江戸時代以来の伝統技術を維持するだけではなく、それを地域の新しい文化に発展させている。
・東京という都会にありながら、地域の職人たちが早い時代から工芸技術の継承、保存の重要性に気付き、長年活動を継続している。



多文化まちづくり工房　神奈川県横浜市

概　　要

多様な文化背景を持った人たちが、それぞれの個性を出し合い、ともに楽しく暮らせる「まち」をつくることを目的に、継続的に活動している。人とつながりながら、まちづくりを行い、このまちで育った子どもたちにとっても、このまちに思いを持つ人たちすべてにとっても、大切なふるさととして、愛されるまちづくりを促進するため、地域や地域の関係機関とも連携している。



評価された点

・多文化なまちづくりに取り組んでいる点は、他の同様の地域でも参考になる。
・外国籍の人や子ども、若者など、社会的に排除されやすい人たちの居場所を創りだし、地域に新たなつながり合いを作り出している点が高く評価される。この地域で育った外国籍の若者が高齢化が進む団地のサポーターとして活躍するなど、当団体が目指す多文化の共生が”本物”であることを裏付けるもので今後も地域をつなぐ核として重要な役割を果たし続けることが期待される。
・国際化、多様化に対応した事業であり、都市型の活性化モデルとなる。

